

INFORMATION 3年間のProject研究成果 発表シンポジウムを行います

次世代教育研究推進機構（NGE）が進めてきた「日本における次世代対応型教育モデルの研究開発」Projectは本年3月で一区切りとなります。そこで、3年間の成果を公表し、それを広く活用していただくために、第2回東京学芸大学次世代教育研究推進機構シンポジウムを企画いたしました。日時は3月10日（土）10:20-17:30で一橋講堂（学術総合センター2F）にて行います。

当日は、シュライヒャー OECD教育スキル局長の記念講演、西岡加名恵京都大学教授の講演、田熊美保 OECDシニアアナリスト、奈須正裕上智大学教授、西岡加名恵京都大学教授、平本正則横浜市立仲尾台中学校長の4氏によるディスカッションを予定しております。そして、Projectの成果として、コンピテンシーを育成するための指導・学

習・評価のあり方に関する多数の報告と提言を行い、「21世紀のコンピテンシー育成のためのオンライン動画サービス：21CoDOMoS」のデモンストレーション公開も行います。

報告する成果は、10:20からのセッションでは、総合的な学習の時間・道徳・特別活動の評価のあり方についてさまざまな提言を行います。14:20からのセッションでは、コンピテンシーの育成を教科等の授業でどのように実践するかのモデル（指導・学習モデル）およびその具体的な手立てを提案します。

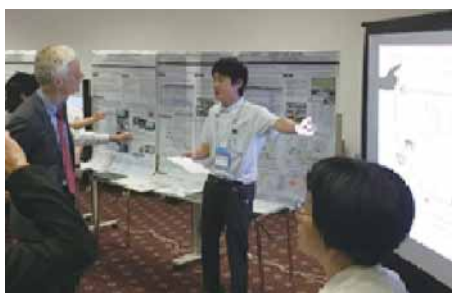
参加申し込みは、<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jisedai>よりお願いします。



シンポジウムのご案内

NEWS 第19回OECD/Japanセミナーにて、OECDシュライヒャー局長をはじめ国内外の 教育関係者にProjectの授業分析研究を紹介しました

2017.7.1



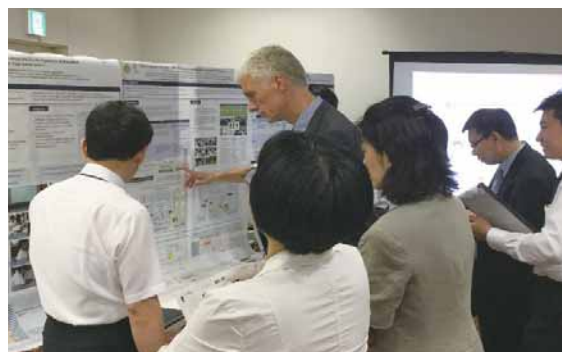
シュライヒャー局長に説明する細川太輔准教授

2017年7月1日に、第19回OECD/Japanセミナー「PISA2015から見えるこれからの学び：科学的リテラシーと主体的・対話的で深い学び」が文部科学省講堂で開催されました。セミナーは、教育分野における国際協力を推進し、教育改革や教育政策立案に資する

ことを目的としています。

今回、セミナーと同会場にて、文部科学省大臣官房国際課のご推薦により、NGE-Projectによるコンピテンシー育成授業のポスター発表を実施しました。発表は、理科の授業について鎌田正裕教授と中野幸夫准教授が、授業内での活動の相互作用分析について国語教育の細川太輔准教授が、英語と日本語ポスターで行いました。発表では、OECD教育・スキル局のシュライヒャー局長を始め、国内外の教育関係者との間で多

数の質疑応答と情報交換を行いました。特に、シュライヒャー局長からは、授業でのコンピテンシー育成の取り組みについて多数の質問とコメントがあり、Projectの研究成果について高い関心を示していただきました。



シュライヒャー局長の質問に答える鎌田正裕教授

NEWS OECDシュライヒャー局長、OECD_Education2030事業スタッフ、ISNスタッフに Projectの取り組みと成果を紹介しました

2017.7.2

2017年7月2日には、東京大学にてOECD教育・スキル局のシュライヒャー局長と関係者、鈴木寛文部科学大臣補佐官、OECD日本イノベーション教育ネットワーク（Innovative Schools Network: ISN）のスタッフと次世代Projectとで事業の進捗状況に関する会合を行いました。次世代Projectからは成果と今後の方向に関するプレゼンテーションを岸Project Leaderが行いました。シュライヒャー局長からは、動画配信システム21CoDOMoSの運用とコンピテンシー育成に関するさまざまなevidence集積への期待が表明されました。

2017年8月2日には、東京大学にて、OECDのEducation2030事業スタッフ（田熊美保シニアアナリスト、Lars Barteitアナリスト、Esther F. S. Carvalhaesアナリスト）と次世代Projectスタッフ（岸学Project Leader、山田一美教授、柄本健太郎講師、下島泰子特命講師）との間で進捗状況と8月時点での成果に関する意見交換を行いました。意見交換では、得られた知見の詳細について多数の質疑応答を行い、その中で特にコンピテンシーの構成要素をどのように構造化していくのか、Curriculum Content Mapping（CCM）の枠組みをどのように設定するかについて議論が集中しました。



8月2日に行われたOECDスタッフへの成果報告

NEWS OECDのIWG (Informal Working Group) 会議がリスボン (第5回) とパリ (第6回) で開催されました

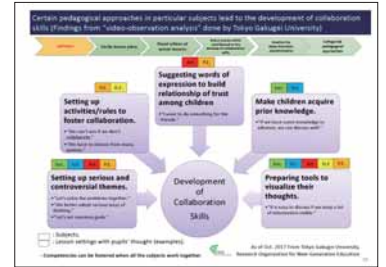
2017.5.16-18



第5回IWG会議(リスボン)で発表する柄本健太郎講師

2017年5月16日から18日まで、ポルトガル(リスボン)にて、第5回Informal Working Group会議(以下IWG会議)が開催されました。IWG会議は、OECD事業の成果を集約、共有し、各国代表者による議論を行う場として2015年から開催されています。第5回では機構からは柄本健太郎

また、2017年10月23日から25日まで、フランス(パリ)のOECD本部にて、第6回IWG会議が開催されました。機構からは、第5回に引き続き柄本健太郎講師が出席しました。東京学芸大学の研究成果は、二日目に鈴木寛文部科学大臣補佐官の発表の中で紹介されました。その内容は、コンピテンシー育成のための授業を実践するときのような手立てを設定するかについて、汎用的スキル「協働する力」の育成を例にして分析した結果です(Projectの部門1 Group作成)。そして、OECD事業が2019年以降にphase 1からphase 2への移行する際の検討事項である、という位置づけで紹介されました。



第6回IWG会議(パリ)にて鈴木寛文部科学大臣補佐官により紹介した「協働する力」育成の手立て図

講師が出席し、発表を2件行いました。発表内容は、東京学芸大学附属大泉小学校の松井直樹教諭による体育の授業実践映像(解説字幕、分析担当:鈴木聡准教授)と、価値の育成に関する機構の調査結果等についてで、政府関係者、教育実践者等の会場で紹介されました。

NEWS APEC (アジア太平洋経済協力) Future Education ForumにてProjectの研究成果発表を行いました

2017.11.15-17



小森准教授による成果発表

2017年11月15日~17日にベトナム・ハノイで開催された「APEC (アジア太平洋経済協力) Future Education Forum (AFEF) & International ALCoB Conference」に芸術・スポーツ科学系健康・スポーツ科学講座の小森伸一准教授が参加し、次世代教育研究推進機構projectの研究成果について発表を行いました。この発表は、APECのForumで日本の教育を紹介するにあたり、文部科学省大臣官房国際課より本機構の取り組みを紹介するよう推薦を頂き、実現したものです。

小森伸一准教授は、15日のSession1-Competenciesにおいて、"Values in Japanese Curriculum and Schools"をテーマとして発表を行い、子供たちが互に関わり合いながら学び合うアクティブ・ラーニングの一形態を通して、複数のコンピテンシーや技能(skills)が相互に作用して育まれることについて、授業映像を交えて紹介を行いました。

小森准教授の発表内容は、学校現場におけるより具体的な視点を交えたものであったため、参加者からの関心も高く、特に現職の教員からは高く評価されました。

NEWS 共同研究を行っている附属大泉小学校の研究発表会で「探究科の評価のあり方」について全体提案を行いました

2018.1.27



研究発表を行う梶井准教授及び宮澤助教

2018年1月27日、東京学芸大学附属大泉小学校研究発表会において、これまで小学校とProjectとの間で行ってきた共同研究「探究科の評価」について、全体提案II「評価のあり方について」で提案を行いました。研究発表には、500人が参加しました。この全体提案II「評価のあり方について」では、梶井芳明准教授と宮澤芳光助教が登壇し、梶井芳明准教授から、これまでの共同研究の内容である「探究科の評価のあり方について—形成的評価を促すルーブリックの開発—」の発表があり、これまでの3年間の共同研究の概要が示された後、「探究科」で育む資質・能力に関する調査結果に基づいた学習評価法の提案が行われました。さらに、宮澤芳光助教から「学習評価支援システムの実践」について紹介がありました。学習評価支援システムは、iPadを用いて自己評価を記録することができ、自己評価の証拠として写真や動画を合わせて蓄積することができるものです。加えて、研究発表会では、4年きく組と5年うめ組の授業において、学習評価支援システムを利用し、ルーブリックに基づく自己評価を実践した内容を公開しました。

NEWS 道徳授業スキルアップセミナーにて道徳の評価のあり方に関する研究成果を紹介しました

2017.12.2

部門3の道徳の評価に関する取組については、本学の現職教員研修推進機構の試みとして展開している8月、12月の道徳に関するセミナーにNGEとしての取組も重ねています。12月2日の「道徳授業スキルアップセミナー」の際には、本学の大講義室にあふれる参加者の中、道徳の評価に関する基調講話及びNGEに委託して実践した評価事例の発表報告がされました。また、夏季のセミナー参加者に回答いただいた評価への取組、課題、方法等に関する意識調査(200名分)の分析結果が報告されました。そこでは、小中学校教員相互の評価の受け止めの違いなどの興味深い結果とともに、例えば、評価記述に関する着眼点として、変容や良さに関する認め励ます評価とし、保護者に伝わる具体的な姿・行動などとして記述する方向が整理して示されました。

道徳の評価に関しては、上記取組とともに、道徳授業実践家からの聞き取り内容の分析や評価実践事例で実際に記述されたコメントの分析などから、特に通知表における評価記述の視点や枠組等について検討を進めています。



意識調査結果を発表する元・布施専門研究員

REPORT 特別活動でのコンピテンシー育成およびその評価について、八王子市立式分方小学校との共同で研究を進めています

Projectの部門3で実施している特別活動の評価（担当：杉森伸吉教授・林尚示准教授・布施梓専門研究員・元笑予専門研究員）については、東京都八王子市立式分方小学校校長の清水弘美先生にご協力いただき、同校の学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事を研究に活用させていただいています。同校の特別活動の授業をビデオ収録し、音声データから文字起こしをして研究の根拠としています。部門3では、新学習指導要領の資質・能力育成に活用できる評価表現を国立教育政策研究所教育課程研究センターの学習指導案データベースから抽出して分析し、本学教職大学院で学ぶ現職教員など10名にインタビュー調査を実施し、「東京学芸大学特別活動評価シート」を作成しました。このシートを活用して式分方小学校の特別活動を分析しています。まずは特別活動の要（かなめ）の時間である学級活動を対象として、「東京学芸大学特別活動評価シート」の有用性について検討しました。学級活動は(1)が学級会、(2)が生活指導、(3)がキャリア教育の特徴をもちます。それぞれの内容について、「東京学芸大学特別活動評価シート」を活用すると、文部科学省の資質・能力の育成状況が具体的な根拠に基づいて適切に把握できます。



八王子市立式分方小学校の特別活動の様子

NEWS 評価を研究している部門2グループにより、ルーブリックの作り方に関するワークショップを行いました

2017.6.21



鄭谷心・宮澤芳光助教によるルーブリック作成のワークショップ

2017年6月21日（水）、本機構では、東京学芸大学附属大泉小学校にて、ルーブリックを活用した授業実践に興味・関心のある附属大泉小学校の教員18人を対象にし、ルーブリックの作成に関するワークショップを開催しました。ワークショップは、Project部門2の鄭谷心助教（現琉球大学）が主導し、宮澤芳光助教がその支援と撮影を行いました。ここでは、まず、鄭谷心助教よりルーブリック作成の手順と留意事項について説明を行いました。その後、参加した附属大泉小学校の教員が低学年と中学年、高学年に別れて、その学年ごとに児童の自己評価の記述内容について検討し、その自己評価についてルーブリックを作成しました。学年ごとにルーブリックが完成したあと、そのルーブリックの内容について学年間で発表を行い、参加した教員間で評価観を共有しました。

INFORMATION

コンピテンシーの評価をまとめた手引きを出版します

次世代Projectでは、コンピテンシーの評価法について3年間でさまざまな知見や提言を集成してきました。この度、その成果を広く普及・活用していただくために、図書文化社より「学校教育で育むコンピテンシーを評価する：次世代の教育のための評価の手引き（仮題）」の出版を準備しております。

目的は、小・中学校教員が子どもたちのコンピテンシーを評価するために必要な考え方や、そのためのツールの作り方、活用方法、評価に直接利用可能な情報などを、「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の評価の枠組みを踏まえて提供することです。執筆は、Projectの部門2・3（評価研究Project）の代表である関口貴裕准教授・杉森伸吉教授を編著者として両部門の教員及び専門研究員が担当します。内容構成は、第1部「総合的な学習の時間における資質・能力の評価」、第2部「道徳・特別活動における資質・能力の評価」、第3部「ICTを活用した新しい学びと評価」となります。出版の暁にはぜひご活用ください。

INFORMATION

研究授業型動画配信システム (21CoDOMoS) の運用を開始します

研究授業型動画配信システム (21st century Competency Development Online Moving-image Service: 21CoDOMoS) の運用を3月から開始します。21CoDOMoSでは、学校教育で「コンピテンシー(資質・能力)」を育成することをねらいとした授業動画を配信し、この授業動画で教え方を「学ぶ」「考える」「議論する」ことができます。

まず、授業動画で教え方を「学ぶ」ために、教師・児童生徒・教室全体を撮影した三つの授業動画で3視点から同時に授業を視聴できます。複数の視点から撮影した授業動画を同時に視聴できるため、コンピテンシーの育成の場面が実際に授業を見学しているように見ることができます。次に、授業動画で教え方を「考える」ために、授業動画を閲覧しながら、同時に授業実践者による授業の解説を聞くことができます。また、研究者・協力者の解説やコメントの動画を視聴できます。

授業動画で教え方を「議論する」ために、授業について参考になった箇所に「いいね」をつけることができます。この「いいね」は集計されて、タイムライン上に表示されます。また、授業動画の内容についてコメントを投稿し、研究授業でのディスカッションを実現することができます。



研究授業型動画配信システム「21CoDOMoS」の画面)

NEWS

2017.12.25

広島県公立学校校長会連合会と広島県教育委員会の講演にてコンピテンシーを育成するための授業のあり方について提言しました

2017年12月25日に広島県公立学校校長会連合会研究大会にて「子どもたちが身に付けるべき力とこれからの授業づくり」の講演を広島県立文化芸術ホールにて、岸学特命教授が行いました。出席者は全県の小・中・高・特別支援の公立学校の校長約800名でした。2018年1月6日には、広島県教育委員会「学力向上のための実践交流会」にて「学びの視点から育成されるコンピテンシーを考える」の講演を広島大学サタケメモリアルホールにて行いました。出席者は全県から公立学校の教員約1000名でした。広島県は、昨年4月21日にも指導主事等研究協議会にて約300名の方々にお話をする機会を頂いており、合計約2100名の教員の方々にProjectの活動を紹介しております。



広島県公立学校校長会連合会研究大会での講演

講演内容は、コンピテンシーの育成を授業の中で進めるにはどのようにすればよいか？について、Projectが「指導学習モデル」として提言した授業へのアプローチ法を、映像によって具体的に示しました。事後アンケートからはProjectの成果と有用性について高評価を頂きました。また、「本県の取り組み学芸大の取り組みと共通する部分が多いことがわかった」という感想が見られました。広島県は「広島版『学びの変革』アクション・プラン」の策定と実施によってコンピテンシーの育成に先進的に取り組んでおり、Projectとしても広島県との共同を進めていきたいと考えております。

NEWS

2017.9.14

現職教員研修推進機構の研修会にてProjectの取り組みを紹介しました

2017年9月14日に、現職教員研修推進機構主催シンポジウム「次世代型教育を見据えた現職教員研修の展望を語る」が、東京学芸大学合同棟にて開催されました。本シンポジウムは都県区市町村教育委員会職員が対象であり、都県区市町村との組織的関わりを深める契機を双方向的に生み出すことが目的です。前半のパネルディスカッションに続き、後半は研修分野別のブースに分かれ、参加者間で協議を行いました。



シンポジウムで発表する柄本講師

次世代機構からは柄本健太郎講師、鈴木悦夫担当課長が出席し、研究成果と研修との接点について、発表、情報交換、議論を行いました。また、会場内にポスターと開発中の動画配信システム(21CoDOMoS)の設置を行い、システムのデモンストレーションを行いました。

NEWS

2017.8.2-4

ISN (Innovative School Network) のフォーラムにてprojectの活動内容を紹介しました

2017年8月2日から8月4日での3日間、OECD日本イノベーション教育ネットワーク(以下、ISN)主催による「生徒国際イノベーションフォーラム」が国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催されました。フォーラムでは、2015～2016年の2年間の活動の集大成として、世界から200人以上の高校生が集まり、活動報告と議論、相互交流、共同宣言の発信を、大学生、教師、研究者、省庁関係者等のサポートと共に行いました。



ファシリテーターを行う下島特命講師

次世代機構からは、柄本健太郎講師と下島泰子特命講師が出席し、クラスターのひとつとしてブースを設置し、研究成果のポスター発表を行いました。その他、個別の関わりとして、下島研究員は二日目に高校生のグループワークに入り、ファシリテーターとして英語によって生徒の議論をまとめるサポートを行いました。また、柄本講師は、企業の担当者と共に200名以上の高校生の意見をデータとして集積し、大型タッチスクリーン2台で共有する作業を行うと共に、ISNの今後の進め方について研究者と検討しました。

NEWS

2017.9.15

ドレスデン工科大学のスタッフにProjectの紹介をしました

2017年9月15日に、ドイツ・ドレスデン工科大学教育学部・教職センターのAxel Gehrmann教授、Andrea Reinartzマネージャー、Rolf Puderbachコーディネーターの3名に、次世代Projectの研究内容と成果を説明致しました。Gehrmann教授は、昨年教員養成カリキュラム開発研究センターの客員教授として本学にて研究活動をしておりました。今回、本学が取り組むさまざまな事業についての情報交換を希望し、その一環として、前原健二教授の紹介により、次世代Projectの説明の機会を設けました。Projectからは岸学特命教授、柄本健太郎講師、鈴木担当課長が出席して、岸学特命教授によるプレゼンテーションの後、ディスカッションを行いました。ディスカッションでは、コンピテンシー育成を教員養成にどのように組み込むかを中心に活発に議論を行いました。



プレゼンテーションでのドレスデン工科大学の先生方と前原教授・柄本講師

